

例年のように本号は「内視鏡外科手術に関するアンケート調査」特集号である。これは前身の内視鏡下外科手術研究会による1991年の第1回調査以来、2年ごとに調査実績を重ね、今年の調査で第12回を数えるようになっている。最初の3回を万代基嗣現理事が担当し、他に類を見ない事業の先鞭をつけられた。小生は4回より10回までを、そして最近の2回を山下裕一理事が担当し、本会の重要な事業として継続している。小生が担当以来、実務を担当している現大分県立病院板東登志雄外科部長に誌面を借りて謝意を表したい。この調査は言うまでもなく腹部外科領域はもとより、小児外科、呼吸器外科、産婦人科、泌尿器科、整形外科、形成外科などの全10領域を網羅しており、このような各科横断的なアンケート調査は世界的にも類を見ないアンケート調査となっている。

内容を見ると、今回の調査では、全国の1,380施設より回答を得て(回答率48.4%)、直近の2年間に行われた33万例のデータを集計し、総計では1990年以降これまでの調査で164万例が集計されるに至っている。2011年からNCDによる症例登録が開始され、内視鏡外科に関するデータが広く集積されるようになったが、本アンケート調査はわが国における内視鏡外科の黎明期から現在に至る手術症例数の推移や手術適応の変遷、合併症の発生状況やその対処法などを明らかにする調査であり、多方面にわたって有用な資料となっている。症例数の増加が著しいのは大腸癌に対する手術症例で、前回調査に比べ24%増の37,951例である。その内訳では早期大腸癌の症例数に大きな変化がない中、進行大腸癌の症例数の大幅増(21,000例から27,000例へ増加)があり、これが大腸癌全症例数の増加につながっているようである。

勿論このような増加は術者が責任をもって安全と考えた結果であるが、昨今はそのエビデンスが求められる。その意味では厚生労働科研究班のRCTであるJCOG 0404の結果が大きな影響を及ぼすと考えられる。

この研究は、進行大腸癌に対する標準手術としての腹腔鏡下手術の妥当性を検証する多施設共同ランダム化比較試験(第III相試験)である。その特色は、海外の同領域の臨床試験の問題点を克服したプロトコールに基づき、1,050例の大規模な登録症例数、腹腔鏡手術と開腹手術のそれぞれのエキスパートが手術を実施、全症例の手術写真の提出による中央判定を実施、などである。2004年にスタートしたこのRCTは、昨年、短期成績の解析にて腹腔鏡手術が在院日数や創開連合併症などの5項目で優位性が示され、この秋、いよいよ最終解析結果が明らかになる。現在、大腸癌に続いて胃癌においてもわが国で臨床試験が進行中である。このように内視鏡外科の発展には、技術の進歩とともに、エビデンスの裏付けが社会から求められる時代となったといえよう。

いずれにしても病める人々に最良の医療、外科手術を届ける努力と仕組みは未来永劫に必要であり、ここに本会の存在理由があると考える。

(北野正剛)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第19巻 第5号) 2014年9月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価: 本体 2,800 円 + 税 * 会員には毎号送付されます。

2014年 年間購読料: 冊子版 17,650 円, 電子版/個人 17,650 円, 電子版/共有 20,300 円, 冊子 + 電子版/個人 20,650 円, 冊子 + 電子版/共有 23,300 円 (税込) (配送料: 医学書院負担) * 会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北野正剛)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1302 E-mail: jses@convention.co.jp (担当: 野上)

<http://www.jses.or.jp>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 18 F-1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2014, Printed in Japan

発売: 株式会社医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 水野, 安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/><http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●原著

同時性多発大腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術の検討古谷晃伸・他 静岡県立静岡がんセンター大腸外科

●症例報告

腹腔鏡下摘出術を施行した骨盤内巨大類表皮嚢胞の 1 例上嶋 徳・他 浜松医療センター消化器外科
恥骨上切開による単孔式腹腔鏡下腹膜外アプローチで修復した両側閉鎖孔ヘルニア

の 2 例蛭川浩史・他 立川総合病院外科

傍ストーマヘルニアに対して腹腔鏡下根治術 (Sandwich 法) を施行した

2 例中島雅之・他 熊本赤十字病院外科

腹部ステントグラフト内挿術 (EVAR) 後の Type II

エンドリークに対し腹腔鏡下腰動脈結紮術を施行した

1 例宮崎 大・他 北海道大学医学研究科消化器外科学分野 II

胸腔鏡および頸部切開にて核出しえた頸胸境界部食道神経鞘腫の

1 例野田和雅・他 埼玉県立がんセンター消化器外科

腹腔鏡下胆嚢摘出術後に肝被膜下血腫をきたした 1 例久保直樹・他 安曇総合病院外科
再発食道裂孔ヘルニアに対して腹腔鏡下に再手術を施行

した 1 例秋元俊亮・他 東京慈恵会医科大学外科学講座消化器外科

腹腔鏡下修復後に再発した傍ストーマヘルニアに対して腹腔鏡下に修復しえた

1 例高山寛人・他 安曇野赤十字病院外科

両側大腿ヘルニア嵌頓に対して腹腔鏡下手術を施行した 1 例川口保彦・他 神戸市立医療センター西市民病院外科
成人腸回転異常症を合併した盲腸癌に対し腹腔鏡補助下回盲部切除術を施行した

1 例藤井幸治・他 伊勢赤十字病院外科

腹腔鏡下手術を施行した胃切除 (B- II 再建) 後に発生した吻合部

潰瘍穿孔の 1 例北園 巖・他 第一東和会病院内視鏡外科センター

腹腔鏡下に診断と修復を行った鼠径ヘルニア起因の interparietal hernia の

1 例山田和之介・他 白十字病院外科

胸部中部食道の有鉤義歯による食道異物に対して胸腔鏡下異物摘出術を施行

した 1 例松田諒太・他 九州厚生年金病院外科

●私の工夫

腹腔鏡下直腸癌手術における彎曲型腸管クリップの有用性谷村 修・他 福岡大学医学部消化器外科

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。